

請求の理由の記載例（商標）

請求の理由

判定請求の理由の要約

	本件商標 商標登録第 号	イ号標章
態 様		×××（図） （注）文字と図形の結合標章
商 品	指定商品・区分 第 類 , 第 類 ,	使用商品
経 緯	出願日 平成 年 月 日 登録日 平成 年 月 日 公報発行日 平成 年 月 日	使用開始日 平成 年 月 日 現在使用中
理 由 要 点	<p>本件商標は、「 」文字よりなるものであるから、「 」の称呼、「 」の観念を生ずる。これに対し、イ号標章は「×××」の文字部分より「 」の称呼、「 」の観念を生ずるものである。両標章は、「 」の称呼「 」の観念を共通にする類似の標章である。</p> <p>また、本件商標にかかる指定商品中第 類「 , 」とイ号標章の使用商品「 」とは、類似の商品である。</p>	

判定請求の必要性

請求人は、本件請求にかかる登録第 号商標（以下「本件商標」という。）の商標権者であるが、被請求人が商品「 」に標章「 」(以下「イ号標章」という。)の使用をしていること(甲第 号証)について、平成 年 月 日、被請求人に対し、前記商標登録の商標権を侵害するものである旨の警告を発した(甲第 号証)。

その後、請求人と被請求人とは、交渉の結果、前記商標登録の商標権の効力の範囲について専門的知識をもって中立的立場から判断される判定を特許庁に求め、その判定に基づいてこの問題を解決することを合意した。

よって、本件判定を求める次第である。

イ号標章の説明

被請求人は、平成 年 月頃より、「×××」の文字と・・・の図形からなるイ号標章を付した商品「 」を製造し、東京都内の・・・店で販売している(甲第 号証)。

請求人は、昭和 年 月頃より、商品「 , 」について本件商標の使用を開始し(甲第 号証)、その後も継続して使用し、現在に至っている。同商品の生産数量、売上数量、販売地域等は甲第 号証から甲第 号証に示すとおりである。本件商標は、請求人が永年使用した結果、遅くとも被請求人に対し前記警告を発した平成 年 月 日頃までには、東京、・・・の各都県において、請求人の業務にかかる商品を表示するものとして需要者の間に広く認識されるに至ったものである。

イ号標章が商標権の効力の範囲に属するとの説明

本件商標は、「 」の文字を書してなるものであるから、これより「 」の称呼及び「 」の観念を生ずるものである。

他方、イ号標章は、「×××」の文字と・・・の図形からなるものであるが、・・・であるから「×××」の文字部分より「 」の称呼及び「 」の観念をも生ずるものである。

したがって、本件商標とイ号標章とは、外観が相違するとしても、「
」の称呼、「
」の観念を共通にし、商品の出所について混同を生じ
させるおそれがあるから、類似の標章というべきである。

そして、本件商標にかかる指定商品中第 類「
、
」とイ号標
章の使用商品「
」とは、・・・であるから、類似の商品である。

以上のとおり、イ号標章は本件商標と類似する標章であり、その使用商品
と指定商品も類似する商品であるから、被請求人が商品「
」に使用す
るイ号標章は、登録第
号商標の商標権の効力の範囲に属する
ものである。

結 び

よって、請求の趣旨のとおり判定を求める。